

林業・木材産業の成長産業化（日欧EPA対応）

国際競争力に打ち勝つためには

林業・木材産業の現状と課題

●原木の安定供給

- ・森林資源は充実してきたものの、林業専用道(トラック道)の整備や機械化の遅れなどから、原木生産の低コスト化及び安定供給体制の立ち遅れ
(急峻な地形に応じた作業システムの定着)
- ・間伐や皆伐後の再生林に意欲のない森林所有者が増加
- ・原木増産に向けた機運が高まっているものの、林業経営体における事業地確保や効率化が遅れている

●木材需要の拡大

- ・製材品の需要は、外材や集成材との価格競争などにより長期低迷
- ・将来的な人口減少などにより、木材の主な需要先である住宅の着工戸数は減少傾向
- ・非住宅建築物は、鉄筋コンクリートや鉄骨造が主流であり木造率は低位

●林業の担い手の育成、確保

- ・十分に活用できる森林資源があるにもかかわらず、担い手不足により原木の増産は滞っている
- ・林業就業者数は下げ止まり傾向にあるが依然として減少

成長産業化に向けた対応方針

●原木の安定供給

- ・原木生産の低コスト化に向けては、林業専用道などの整備や高性能林業機械の導入が必要
- ・皆伐後の植林や下刈などの低コスト化が必要
- ・さらなる原木生産の拡大に向け、意欲と能力のある林業経営体の育成が必要



●木材需要の拡大

- ・国産製材品の競争力を高めるためには、ハード、ソフト両面から事業体の経営体質の強化を図ることが必要
- ・非住宅建築物の木造化に向け、A材対策として一般流通材などを活用した新たな技術開発や、CLTなどを核とした需要拡大が必要
- ・木材需要の新たな需要先として、海外への市場開拓が必要



●新たな担い手の育成、確保

- ・国産材の安定供給を担う人材の育成、確保を図ることが必要
- ・非住宅建築物の木造化には、木造を設計できる建築士の育成が必要



●日欧経済連携協定の大枠合意

今後、構造用集成材等における関税が段階的に廃止されることが確実となり、林業・木材産業は大きな転機に直面

林野庁予算の推移と人工林の齢級構成の推移の状況

林野庁の予算推移

林業・木材産業の強化に必要な予算は大幅に減少

単位: 億円

	H10	H15	H20	H25	H28
森林整備事業(造林・林道)	2,775	1,816	2,016	1,564	1,608
非公共事業(主に川中・川下対策)	705	351	539	903	561
(参考)林道開設実績(km)	808	602	310	267	238(H27)
間伐面積(万ha)	26.1	31.2	43.4	40.0	34.1(H27)
造林面積(万ha)	3.9	2.5	2.3	2.2	1.9(H27)
治山事業	2,780	1,455	1,276	775	696
その他※1	1,229	1,249	1,219	1,023	1,258
合計※2	7,489	4,871	5,050	4,265	4,123

※1 その他は、林業試験研究等、災害復旧等、国際林業協力、その他(人件費など)の計。

※2 一般会計の予算額(補正を含む)。(出典: 林業白書)

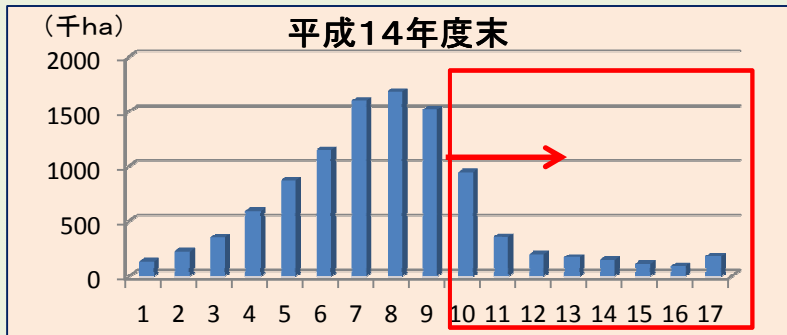
平成10年に比べ約53%の予算措置

(3,978億円(H29) ÷ 7,489億円(H10))

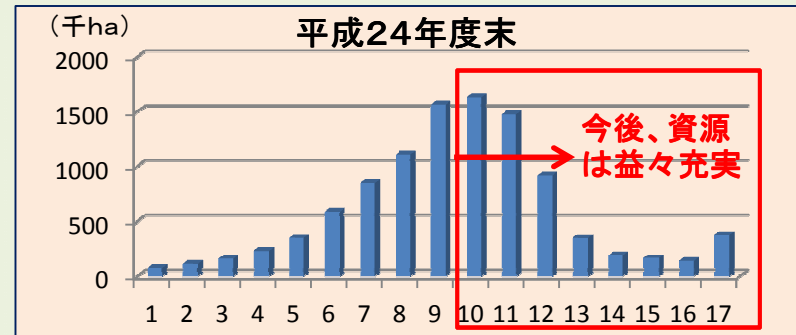
○平成29年度当初予算 概算決定額 2,956億円
(平成28年度2次補正を含めば 3,978億円)

○平成30年度当初予算 概算要求額 3,566億円 → 林業成長産業化に向けて予算確保が必要!

人工林の齢級構成の推移



約2.4倍の
森林が
利用期に移行



今後、資源
は益々充実

○46年生(10齢級)以上の人工林率 21%
→利用期の森林面積 2,203千ヘクタール

○46年生(10齢級)以上の人工林率 51%
→利用期の森林面積 5,242千ヘクタール

CLTは中山間対策の切り札！！

CLTが様々な木材の利用を牽引

1 様々な木質資材・木造工法



CLTパネル 製材 集成材

SWP(幅はぎパネル)



CLTパネル工法 木造軸組工法 木造トラス構造

2 CLTを核に木材利用を促進

【CLT+木造軸組工法】

CLT(壁)、集成材・製材(梁・桁)



集成材

製材

CLTパネル

3 飛躍的に木材需要が拡大

高知県自治会館【高知県】

6階建て(1~3F:RC、4~6F:木造)

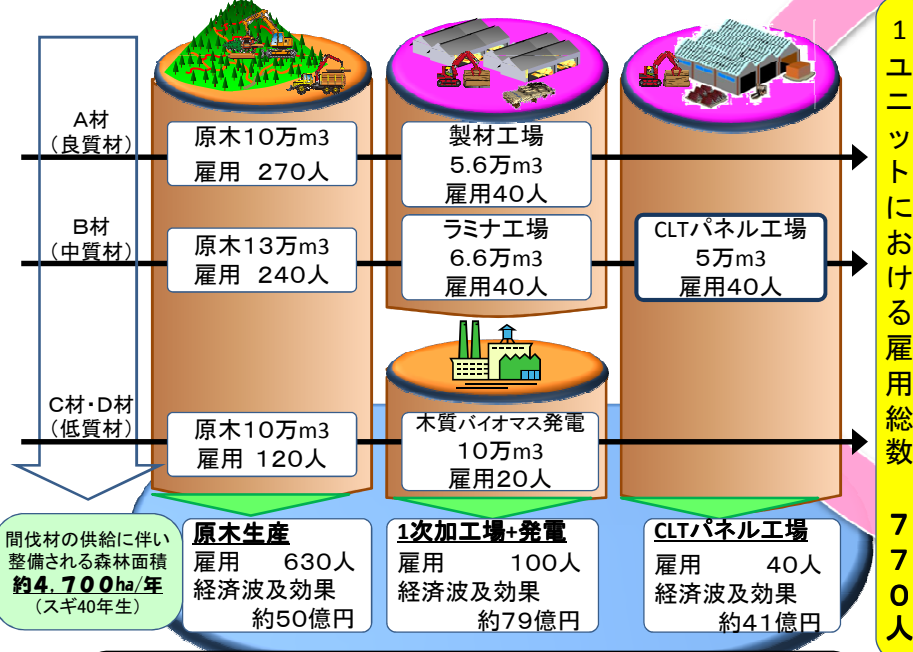
CLT+製材+集成材

これまであまり木材が使用
されていなかった建築物へ
の利用拡大

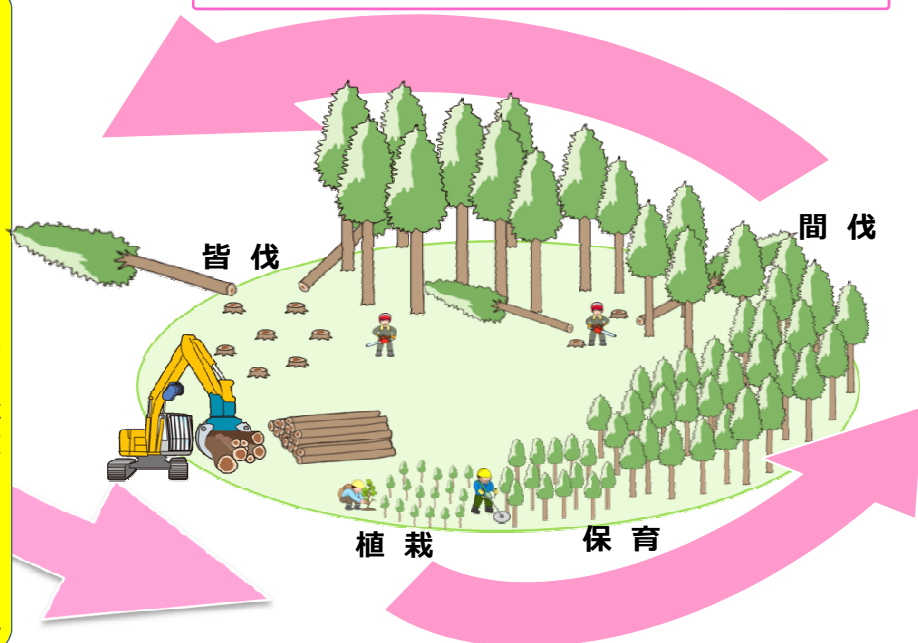


木材全体の需要の起爆剤

林業・木材産業のクラスター化



林業・木材産業の好循環による拡大再生産



1ユニットにおける経済波及効果 **約170億円** ※高知県試算
中高層建築物の約1割(2,100棟/年)を木造化した場合、**50ユニットを創出**

国内の豊富な森林資源を活かして
国土の約7割を占める**中山間地域を活性化！！**

CLTは、輸出拡大・林業の成長産業化の旗頭！！

1 CLT等の国内需要の拡大

●CLTのメリットを活かした木造建築の推進 (中高層・大規模建築に向けて)

【CLTのメリット】

- ・工期短縮
- ・工数(職人)軽減
- ・コンクリートに比較して、重量の割に高い強度



カナダ(学生寮)
・Brock Commons
18階建

出典: <http://www.actonstry.ca/>

●木の良さを活かした特徴ある建築物の整備

【企業価値の向上】

- ・利用者の増加(施主)
- ・業務の拡大(建設関係者)



高知県(事務所)
・森林組合連合会
2階建

【環境への貢献】

- ・居住・職場環境の向上(断熱・調湿など)
- ・地球温暖化防止への寄与(Co2固定など)

2 林業・木材産業の成長産業化

●木材需要の拡大によるコストの低減 (川下から川上へ生産の効率化を波及)

【CLT等を活用した建築の効率化】

- ・設計及び施工のノウハウの蓄積
- ・工法の一般化
- ・知見を有する建築士、施工技術者等の増加

【木材製品の製造の効率化】

- ・製造ラインの稼働率の向上
- ・大型製造施設の整備



岡山県
・CLT工場

【原木の伐採・生産の効率化】

- ・林内路網の整備
- ・高性能林業機械の導入

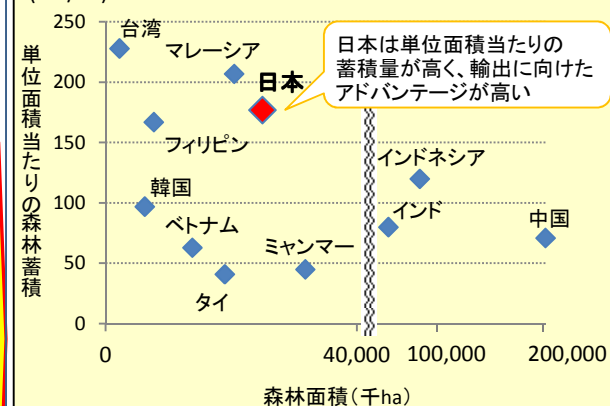


高知県
・高性能林業機械
による造材作業

3 CLT等の輸出の促進

●競争力、特色ある製品による輸出の促進 (日本の森林資源の優位性を活かす)

【アジアにおける国別の森林状況】



【輸出対象の条件の想定】

- ・輸送コストの低い近隣諸国・地域
※アジアなど
- ・木材の輸入依存度が高い国・地域
※中国、韓国、シンガポール、台湾など
- ・木材活用や環境に配慮した建築が推進されている国・地域
※シンガポール、台湾など
- ・GDP、所得が比較的高い国・地域

【CLT等の輸出の検討】

- ・輸出先の法例等調査、普及活動の開始
- ・CLTの試験的輸出を実施予定

◆中高層建築(ビル)に使用できる木質部材であり、木造(住宅)建築の文化がない国・地域でも普及が可能

CLTの
可能性

国際競争力の強化のため、十分な国内対策が必要！！

(木材自給率UP！ 木材輸出の拡大！)

【参考】木材自給率の推移

18.9%(H12) ⇒ 20.5%(H17) ⇒ 26.3%(H22) ⇒ 33.3%(H27) ⇒ **H37目標 50.0%**